

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.44

2021年1月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
 本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7
 レジデンスアロー 101
 TEL&FAX 086-284-9700
 E-mail:hginfo@hofg.org
 https://www.hofg.org/



参考書用写真撮影



オンライン授業作成



ナショナルトレーナー認定ワークショップ 実技試験



教育省ナショナルトレーナー認定式

カンボジア王国 JICA 中学校体育科教育の普及事業終了

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

2017年1月から開始した、JICA 草の根技術協力事業「カンボジア王国 中学校体育科教育指導書作成支援・普及プロジェクト」が2020年9月30日に終了しました。本事業では、主に以下の成果が達成されました。

達成年月	達成事項
1 2017年	学習指導要領400冊の印刷・配付
2 2019年10月	教育・青年・スポーツ省大臣による中学校体育科教育指導書の認定
3 2019年10-12月	中学校体育科教育指導書200セットの印刷・配付
4 2020年9月	プノンペン都3校、スヴァイリエン州11校、バタンバン州14校のモデル校への新しい体育の普及
5 2020年9月	教育・青年・スポーツ省 中学校体育科担当官12名のナショナルトレーナー認定

2016年に認定された学習指導要領に沿った「知識・技能・態度」を修得する新しい体育を、現場の先生がスムーズに教えるための指導書の作成から始めました。教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）の担当官がそれぞれの担当に分かれ進めましたが、なかなかフォーマットの統一や内容の一貫性が取れず、当初の予定より1年遅れての完成となりました。一方で、現場の先生がワークショップの中で年間計画、単元計画、指導案を作成し、授業を実践していきながら指導書完成を目指したことにより、時間をかけた分、教育省担当官や現場の先生の理解を深めることができました。

以下の表は現場の先生方がどのくらい学習指導要領・指導書の内容を理解したかの調査結果です。学習指導要領・指導書に関する問題を20問作成し、毎年同じ内容の調査を先生方に対して行いました。2018年から開始し、本来は2020年まで続ける予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、2年間しか実施できませんでした。6割の先生が70%の内容を理解することを目標としていましたが、2019年には58.73%と惜しくも到達することができず、2020年に実施できなかったのが残念です。

2020年4月からは新型コロナウイルスの影響によりカンボジアの全学校が休校となり、ワークショップやモニタリング等の活動を大きく変更せざるを得ませんでした。

具体的には、①リズム運動のオンライン授業の作成、②器械体操、リズム運動、フィジカルフィットネス（日本の体づくり運動）の参考書作成、③体育用語辞書の作成を新たに加え、一時帰国を余儀なくされていた青年海外協力隊員の方達にもご協力いただき、それらを完成させることができました。

2020年9月で中学校の新体育の普及事業は終了しましたが、次フェーズとして、2021年2月から、同じくJICA 草の根技術協力事業にて、プノンペン都、バタンバン州、スヴァイリエン州の全ての小・中・高等学校の子ども達に新しい体育を普及していく予定です。一人でも多くの子どもに新しい体育を届けられるよう、ハート・オブ・ゴールドは継続して体育科教育支援事業に取り組んでいきます！

州	実施年	回答者	平均点	正答率	7割以上	7割合格率
プノンペン都	2018年	22名	12.27	61.36%	5名	22.72%
	2019年	22名	12.63	63.15%	6名	27.27%
バタンバン州	2018年	16名	13.93	69.69%	11名	68.75%
	2019年	22名	15.77	78.85%	17名	77.27%
スヴァイリエン州	2018年	15名	13.00	65.00%	6名	40.00%
	2019年	19名	14.15	70.75%	14名	73.68%
全体	2018年	53名	12.97	64.88%	22名	41.50%
	2019年	63名	14.19	70.95%	37名	58.73%

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

— 指導員 ビー・タイリー、チュート・スライノッチの報告より —

事業広報部長 井上 恭子

NCCC も ICT 活用

新型コロナウイルスの感染防止措置として、3月以降、カンボジアの全学校が閉鎖され、先が見えない状況が続きました。9月に変則的に再開したものの、再び閉鎖となりました。学校に行けなくなった子ども達には宿題が課され、自主学習が始まりました。学力の低下が案じられていたところ、子ども達を心配してくださったハート・ペアレントの方々が、手を差し伸べてくださいました。新たに光ケーブルを敷設してインターネット回線を整備、パソコンとiPadも用意してオンライン授業を受けることができる環境となりました。コンピュータに初めて触れる子がほとんどで、取り扱い注意事項や使用ルール、電源オンから目当てのサイトに辿り着くまでの操作について、教える側も教わる側もみんな一緒にワイワイガヤガヤ。また、日本の小学校とのオンライン交流では、途中でプツプツ切れることもなく、声もはっきり聞こえるようになりました。プノンペンや本部との連絡も速くなり、仕事の効率もとてもよくなりました。



PC 2台とiPad 2台



雲梯ができました！

NCCC の仕事

カンボジアでは養護施設は福祉省の管轄で、現在NCCCもシェムリアップ州福祉局への正式登録の申請中です。福祉局は、児童の入退所時の家庭調査はもとより、コロナ対策や安全についての指導、子ども達との面接なども行います。指導員のタイリーさん、スライノッチさんも積極的に福祉局の会議や研修に参加するようになっています。その際には、ハート・オブ・ゴールドの活動やNCCCの状況などを説明することがあり、NCCCの中の仕事とあわせて、外に向けた業務も増えてきています。



福祉局スタッフによる児童面接



9月のプチュンバン（カンボジアのお盆）も、新型コロナウイルス感染予防のため、子ども達は実家に帰ることができず、お寺参りも控えました。楽しみにしていることが、次々と中止となっています。

プチュンバンのお供え物づくりは、その後いただくことを楽しみに、みんな積極的にお手伝いをしました。

どちらも、はじまり

8月8日、NCCCを離れる子ども達の壮行会を開きました。

スライニット、ソヴァンナリー、キムチャン、スライキンの4人が、ご両親と一緒に暮らすことができるようになりました。5月にご両親から相談があり、ご家庭の状況等を福祉局とともに確認して、家庭復帰が叶いました。スライニットは、NCCCのお姉さんとして弟妹や子ども達の面倒をみながら、勉強も頑張って岡山学芸館高校への留学を果たしました。その姿を見て、スライニットを目標に学校の勉強と日本語学習に励む子ども達が増えました。今後は、ご両親を手伝いながら、それぞれ自分の夢に向かって進むこととなります。

スライヒエンは、中学卒業後、調理の勉強をする予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で職業訓練校も閉鎖されたため、市場の園芸店で働くこととなりました。NCCCの近くに下宿し、自分で働いたお給料で生活しています。すべて初めての経験でしたが、慣れてきたようです。スタッフに見守られながらも、自立の第一歩を踏み出しました。

少し寂しくなっていたNCCCに、3人の子どもを受け入れました。ソパニー（8歳、女子）とワンニー（5歳、男子）の姉弟と、ソチアター（6歳、男子）。薬売りのおばあさんが働けなくなり、生活が苦しくなったため、入所を希望されました。家庭調査、福祉局の承認を得て、10月21日に入所となりました。3人は来てすぐに他の子ども達と打ち解け、生活にも慣れ、たくさん食べ、思い切り遊び、お兄さんやお姉さんから勉強や様々なことを教わりながら楽しく元気に過ごしています。これまで学校に行っていなかったため手続きをし、ソパニーは小学1年生、ワンニーとソチアターは幼稚園生となりました。3人の孫を送り出したおばあさんは「これで安心です」と心から喜ばれていました。この子ども達が、自分の足でしっかりと立って生きていけるように、先は長いですが、安心した生活と学びの機会を守ります。



新しく入所した3名のハート・ペアレントさんを募集しています

日本への留学、次は就職に向かって

2019年9月より岡山学芸館高校に留学したスライホームは、現在、岡山学芸館外国語学校に転籍し、日本語の学習を続けています。また、日本で介護の仕事に就くことを希望しており、特定技能1号資格を得るために、9月から介護についての勉強も始めました。平日は日本語、週末は、帰国中の村上先生の指導を受けて介護の勉強。とても忙しい日々が続きましたが、11月13日の介護の試験では、「技能」と「日本語」のいずれも初回で合格しました。スライホームの努力と、周囲の皆さんの支えによって、自分の夢にまっすぐと向かっています。



西大寺観音院奉納コンサート(10/4) 和太鼓部も参加

ハート・ペアレントさんとの交流

ペアレントさんには、年2回の通信のほかに、NCCCの様子をお伝えするレポートを定期的にお送りしています。また、子ども達からペアレントさんに、お手紙やカードを届けています。そのおたよりに、ご返事をいただくこともしばしば。子ども達は、日本に自分のことを想ってくれている人達がいることにより、心穏やかに安心して過ごすことができます。今後は、子ども達とのオンライン交流も予定しています。



ペアレントの大光電機株式会社様が子ども達にご返事をくださいました

12月現在の在所児は、14名（男子6名。女子8名うち1名は留学中）となりました。

HG ももたろう日本語学校



オンライン授業
(上段左:村上、右:ナムオイ先生)

新型コロナウイルスの影響による全学校閉鎖を受け、HG ももたろう日本語学校も6月より対面授業からZOOMを利用したオンライン授業に変更しています。今では、教師も学生さん達もすっかりZOOMの使い方に慣れました。また、日本に帰国中の村上もZOOM操

シニア・アドバイザー 村上 貴美子

作を習得し、オンライン授業で指導しています。

失業により授業料が払えなくなったり、田舎に戻ったらインターネットが繋がりにくかったり、それぞれの事情で学校を去る学生がいるのが残念です。また、日本語能力試験が、7月に続いて12月も中止となり、N5、N4取得を目指していた学生達は、困惑しています。彼らのために、継続学習や進路相談のサポートもしっかり行います。

新学期は、1月と7月です。今は、本部事務局と協力して、学習希望者に向けた学校説明会の準備をしています。たくさんの情報を整理して、学生さんにわかりやすく伝え、日本語学習をスタートしてもらいたいです。

教わる立場から、教える立場へ コール・ソティアラー

小学校から高校までチェイ小学校の日本語教室で勉強しました。2017年からハート・オブ・ゴールドに勤めています。今27歳で、結婚しています。夫の仕事は結婚式のカメラマンです。子どもが2人います。1人目は女の子で、来年の1月に4歳になります。現在は休校のため、田舎の夫の実家で生活しています。今年の7月に2人目の子ども(女の子)を産み、3か月間産休をもらいました。その間は、ナムオイ先生に頑張ってもらっていました。感謝しています。10月から仕事に復帰しています。事務所は家から遠いので、赤ちゃんは朝から晩まで粉ミルクを飲ませて、夜だけ母乳です。毎日子どもを育てながら、頑張っています。



学生時代のティアラ先生(中央)、隣の席はノッチ先生(左)

国際理解教育 ー幸せって何だろうー

事務局長 田代 邦子

ハート・オブ・ゴールドは「カンボジアの子どもも、日本の子どもも大切」との想いで、設立当初から学校の国際理解教育(SDGs推進)に協力しています。世界の状況や子ども達について知り、社会のために活動できる喜びを知ってもらうために出前授業を実施しています。

今年は、オンライン化が進んだこともあり、いろいろな学校でオンラインを含めた出前授業を実施することができました。講師は、有森代表、留学生のスライホームさん、本部及びカンボジアスタッフ。

以下、子ども達からの感想文の一部です。

- ・ハート・オブ・ゴールドの人は「与えるのではなくて、自立できるように手助け」を行っている。
- ・すごいと思ったのは、何かをあげるだけではなくて、助けてもらった人が、次はだれかを助けられるようにしているところ。
- ・どんな活動も長いこと続けていくことが大切だと思った。
- ・話を聞いて「幸せって何だろう」って、いつも自分の中で考えていくようにしようと思った。
- ・有森さんの話をきいて、小さなことでもチャンスだと思い、何度も挑戦することで人生が大きく変わっていくことを知りました。私も私にしかできないことを見つけて、あきらめずに成し遂げたいです。



チェイ小学校に健康手帳を届けました！

2019年に作成を始めた健康手帳。内容は、身長や体重の成長の記録、体育の授業で行う体力測定、TAO 東洋医学研究会による歯科検診記録、NPO 法人 FIDR が作成したアンコールワットをイメージした何とも素敵な“フードピラミッド”など盛りだくさん。新型コロナウイルス感染予防対策の基本ともなる手洗いについては、日本の厚生労働省が作成したポスターからいただきました。学校再開後には、内容理解のためのワークショップや体力測定を予定しています。児童が自分の体や健康について意識を高め、先生や家族と共有し、地域への普及・啓発へと広がる活動を目指します。



カンボジアにランニングシューズを贈ろう

12月19日(土)、岡山市のRunpro(ランプロ)様、エイコースポーツ様に集まったシューズ180足の贈呈式が、カンボジアパラアスリート、コーチ、有森代表と会場の4か所をつないで行われました。「離れていても、気持ちの距離は近い。お金では買うことができない“想いのシューズ”」との代表の言葉どおり、ご支援いただきました皆様、本当にありがとうございました。

(この活動は6回目となります。)



JICA 地球ひろばオンラインセミナー

8月18日(火)19:30-21:00、「スポーツを通してカンボジアに“健やかな体と豊かな心”を」と題し、有森代表と西山東南アジア事務所長が、体育科教育の活動を紹介。100名を超える方々にご参加をいただきました。また、8月はJICA地球ひろばにて、月間パートナーとして、JICA事業で作成した体育の学習指導要領や指導書、活動写真などを展示していただきました。

第10回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国

カンボジアの小学校に鉄棒を贈ろう！

11月29日(日)、コロナ禍での開催のため3分の1規模に縮小して実施しました。また、実施検討により、いつもより2か月ほど遅い時期となり、感染予防対策とあわせて寒さの心配もしましたが、小さな子ども達も元気いっぱい園内を走り抜けました。有森代表は、リモートにて開会式、閉会式で皆様にご挨拶。「こんな時でもスポーツを楽しむ気持ち、こんな時だからこそ改めて家族や誰かを想う気持ちを大切に、今できることを頑張りましょう！」

主な活動報告 (2020年後半)

- 7/2 岡山市立第三藤田小学校 オンライン出前授業
- 7/9 同 出前授業
- 8/3 アニモの会 オンライン交流会
- 8/8 NCCC 退所児童壮行会
- 8/18 JICA 地球ひろば オンラインセミナー
- 8/31 チェイ小学校 健康手帳贈呈
- 9/14 朝日塾小学校 出前授業
- 9/23 NIPES 卒業式
- 9/24 朝日塾小学校 オンライン出前授業
- 10/14 JICA オンライン報告会
- 10/21 NCCC 新入所児童受入(3名)
- 10/22 JICA 事業終了式/NT 認定式
- 10/24 AWHM プレスカンファレンス/寄付授与式
- 11/20 岡山市立第三藤田小学校 オンライン交流会 with NCCC
- 11/29 第10回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国
- 12/15 岡山市立野谷小学校出前授業
- 12/18 第2回理事会
- 12/19 ランプロ & エイコースポーツ シューズ贈呈式
- 12/20 山陽女子ロードレース パネル出展
- 12/22 カンボジア日本人学校 オンライン講演

主な活動予定 (2021年前半) 変更あり

- 1/6 東洋大学健康スポーツ学科 オンライン授業
- 1/20 岡山せとうち LC 例会 活動報告
- 2/13 藤沢 RC 講演会
- 3/19-20 第10回記念淀川マラソン 2021 (大阪)
- 4/18 第31回かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン (土浦)
- 5/24 みしま西山連峰登山マラソン (長岡)

新型コロナウイルスによる活動への影響

2020年は、オリンピックに湧き上がるはずが、新型コロナウイルスという見えないものと世界中が闘う年となりました。感染拡大が未だ収まらない状況が続くなか、ハート・オブ・ゴールドは、状況に合わせてできる人が、できる活動を行いました。

ピンチをチャンスに、とよく言われますが、日本人の派遣者が緊急帰国をした後のカンボジア人スタッフの成

長は、その言葉を体現したものとなりました。業務の流れを把握すること、自ら考えて動くこと、問題発生時の解決、新しいことへのチャレンジ。仕事をやる上で当たり前のことのようにですが、実際には明確でなかったり、受け身であったり。課題が浮き彫りになることもありました。一つひとつ対応していくことで、より柔軟な体制を整えていきたいと考えています。

東南アジア事務所での活動

アドミニストレイティブ・コーディネーター **ロン・スライリン**

ハート・オブ・ゴールドで働き始めて3年が経ちました。私の仕事は主に総務・経理で、事務所の水道光熱費や家賃等の各種支払い、必要な備品の買い出し、日本人スタッフのビザ申請手続きや外務省、教育省とのMoU更新手続き等、また現金管理や現金出納帳の作成など事務所を運営していくために大切な仕事をしています。

カンボジアの状況は、11月に外交でカンボジアを訪れたハンガリー外務大臣の感染が見つかり、関係者が数名陽性となったことや、その後初めて市中感染者が発見されるなど、感染が広がり始めました。東南アジア事務所も在宅勤務となりましたが、私は支払いや手続きなどで外に出ることが多く、書類の準備や現金の精算が必要なので事務所に行かなければなりませんし、いろいろな人と関わるのでとても心配でした。外に出るときは必ずマスクを着用し、アルコール消毒、人とのソーシャルディスタンスは常に意識しています。スタッフにもきちんと行うよう呼び掛けています。在宅

勤務はとても安心ですが、私の家にはインターネットがないので、携帯電話のテザリング機能を使用し、メールのやり取りをしていました。現在はみんな事務所勤務に戻り、通常のように仕事をしています。事務所だとスタッフ達と話や相談がしやすいですし、仕事に集中できます。

このような状況なので、カンボジア、日本そして世界の経済がとても心配です。早く収まり、みんなが安全に平和に暮らせる日がくることを願っています。



ロン・スライリン (左) と米山遥香 (右)

本部での活動

プロジェクト・オフィサー **米山 遥香**

新型コロナウイルスが感染拡大し始めた3月にカンボジアより緊急帰国をしました。実家は東京のため、緊急事態宣言下の2か月ほどは在宅勤務をし、6月から岡山本部にて勤務を開始しました。いつカンボジアに戻れるかわからない状況の中で不安を抱えながらも、日本でしかできないことをたくさん吸収しようと日々業務に励んでおります。本部では通常業務のほか会計ソフトを使った経理処理の取得や、経理についての研修に参加しなが

ら知識を増やすことができました。2つの小学校にオンラインで授業をさせていただき、カンボジアで働くことになったきっかけや、活動について話し、子ども達と交流することができました。マラソン大会運営やパネル展示などイベントにも従事しました。現地からではあまり関わることができなかった会員・支援者さんやボランティアさんとのやり取りを通して、皆さんに支えられているおかげで現地での活動がスムーズに行えていることを実感しました。カンボジアに戻ったら本部での経験を活かして、より一層精進していきたいと思っています。

をちこち - Wochi Kochi Magazine -

2019 国際交流基金 地球市民賞受賞団体インタビュー「地域から世界へ 人と人をつなぐ歩み(3)」に、有森代表がハート・オブ・ゴールド設立の想いから、現在の活動に至るまでを語っています。



2021年春、ハート・オブ・ゴールド Booklet2 発行予定

Booklet 1「共に育つ」は設立から10年間の活動を記しました。Booklet 2は、体育科教育に焦点をあて、特に事業に関わった方々の想いを伝える構成にしています。お楽しみに！

事務局からのお願い

- * HG 会員募集！友人・お知り合いの方をお誘いください。
- * 書き損じはがき・未使用の切手・当たり年賀はがきの切手シート・クオカード・商品券 などご寄付ください。
- * ボランティア・インターン募集！
本部事務局にて、事務補助をしてくださる方。



続ける。続けるために。

続ける。誠実であることを。
日々、課題に向き合い、応える。

続ける。協力し合うことを。
尊重し合い、多様な知恵と技術で成し遂げる。

続ける。イノベーションすること。
しなやかに発想し、挑戦する。

本当に大切なことが続くために。

私の“続ける。続けるために。”

続ける。最適な技術の提案を。

安心・安全な水が

当たり前にあることを維持するために。

安心安全な水が当たり前に使えることを維持する。これを行う水道事業者様を支えることが私たちの務めです。最適な技術提案で水道事業者様の課題解決にお応えしています。LED紫外線照射装置もその一つです。お客さまが使いやすい施設を提案し、つくり続けることが、当たり前の維持につながると思っています。

プラントエンジニアリング事業本部
水道技術部

伊藤 昌宏

LED紫外線照射装置

浄水処理で従来使われていた水銀ランプに代わり、LEDを光源として使った安全性が高く長寿命な紫外線照射装置。応答性が良くニーズに合わせた効率的な照射が可能といった利点を持ち、水道事業用としてメタウォーターが初の商品化をした。

伊藤は、浄水場施設の設計や提案のかたわら、LED紫外線照射装置の開発に携わり長期運用試験などを行っている。

